

国立極地研究所プロジェクト研究一覧

番号	研究課題名 (※)	研究目的	左記研究業務の年限 と募集人員	代表者・連絡先
1-①	極域宙空圏総合観測に 基づく太陽地球系結合 過程の研究	本課題では、南極昭和基地の大型大気レーダー（PANSY）、ライダー、ミリ波分光計その他の光・電波各種観測装置とその観測データを活用して、各種光学観測、各種電波観測と関連ネットワーク観測データ、モデリング等も駆使することで、地表から超高層大気までの全大気圏の上下結合及び、極域から中・低緯度赤道域、さらに両極域までの領域間結合過程を明らかにする研究を進める。また、そのための観測技術、装置、解析法等の開発にも尽力する。	平成31年3月まで (3年間) 1名	宮岡 宏 教授 042-512-0662 miyaoka@nipr.ac.jp
1-②	極域宙空圏総合観測に 基づく太陽地球系結合 過程の研究	本課題では、南極域や北極域に展開されている地上観測ネットワークや人工衛星データを用いて、オーロラ現象など、太陽風－磁気圏－電離圏－大気圏結合系に生起する現象の総合的な研究を行う。	平成31年3月まで (3年間) 1名	宮岡 宏 教授 042-512-0662 miyaoka@nipr.ac.jp
1-③	極域宙空圏総合観測に 基づく太陽地球系結合 過程の研究	本課題では、北極圏に設置された EISCAT（欧州非干渉散乱）レーダーを中心に、地上観測やロケット・衛星同時観測と緊密に連携して磁気圏－電離圏－大気圏の電磁的結合過程および大気物理・化学過程を明らかにする国際共同研究を推進する。また、EISCAT_3D 計画の実現に向けてその開発整備にも積極的に貢献する。	平成31年3月まで (3年間) 1名	宮岡 宏 教授 042-512-0662 miyaoka@nipr.ac.jp
2	南北両極のアイスコア 解析による気候・環境 変動の研究	本課題では地球規模での気候・環境変動メカニズムの解明を目指し、両極で掘削されたアイスコアから過去の気候・環境変動を復元する。研究対象とするアイスコアは、南極ドームふじ深層コア、グリーンランド深層コア、両極で掘削された浅層コア、及び、今後南極とグリーンランドで掘削する予定の中層コア、深層コア、浅層コア等である。これらのコアの様々な解析を通じて、過去数十年、数百年、数千年、数万年、数十万年という様々な時間スケールで気候・環境変動を復元する。	平成31年3月まで (3年間) 1名	東久美子 教授 042-512-0674 kumiko@nipr.ac.jp

3	地球温暖化における極域気候システムの振る舞い	本課題では、地球温暖化が進む中で極域で起こっている気候システムの変動を現地観測や衛星観測で捉え、数値モデルや再解析気候データによるメカニズムの解明、全球的様相の理解、及び気候学的な解釈を行うことを目的とする。雇用期間中には南極観測隊への参加を含む現地観測と観測データの解析、特に気候システム変動に深く関与する雲・放射データの解析及び数値モデルの運用を所内研究者とともに行う。	平成31年3月まで (3年間) 1名	平沢尚彦 助教 042-512-0685 hira.n@nipr.ac.jp
4	南極における氷床－海水－海洋相互作用とそれらの変動	本課題では、東南極における氷床－海水－海洋相互作用特性の地域的相違の解明と十年規模変動の実態把握を目指す。具体的には、氷床－海水－海洋相互作用の素過程の詳細な把握、定着氷や氷河氷舌の十年規模変動、及び海洋経年変動の実態とそれとの関係性を明らかにする研究を行うことを目的とする。新たに導入する無人観測装置等を活用した海水・海洋観測を中心とする分野横断的観測研究を意欲的に進める研究者が望まれる。	平成31年3月まで (3年間) 1名	田村岳史 助教 042-512-0682 tamura.takeshi@nipr.ac.jp
5	極域における固体地球の進化と応答	本課題では、極域の研究観測を基礎に、固体地球の応答と進化に関わる変動現象のメカニズムの解明を目的とする。現場観測を中心に、極域で得られた地質、地球物理、地震、測地学等のデータを用いて、現在から数百万年スケールの地球表層環境変動に伴う固体地球の応答や、数百万年から数十億年スケールの固体地球の進化に関する研究を行う。	平成31年3月まで (3年間) 1－2名	野木 義史 教授 042-512-0711 nogi@nipr.ac.jp
6	南極産地球外物質から探る初期太陽系進化	本課題では、主に南極で回収される地球外物質試料を調べることで、初期太陽系や惑星の進化過程を明らかにすることを目的とする。極地研に設置された分析装置を用いて、隕石や微隕石の微細組織観察、局所およびバルク元素組成の定量分析などを行う。	平成31年3月まで (3年間) 1名	山口 亮 准教授 042-512-0707, 0723 yamaguch@nipr.ac.jp
7	南大洋インド洋区における海洋生態系研究	本研究計画では、南大洋インド洋区において得られた基本観測データを用い海洋物理・化学・生物過程の変動を抽出するとともに、変動の主要プロセスを検証することを目的としている。 今回の公募では、これまでに得られた基本観測データを用いて解析を行い、その成果を迅速に公表できる方を求めます。また、基本観測の効果的な実施にあたって、的確な助言のできる方を求めます。	平成29年3月まで (1年間) 1名	小達恒夫 教授 042-512-0738 odate@nipr.ac.jp

8-①	環境変動に対する極域生物の生態的応答プロセスの研究	<p>本研究課題では、両極域の沿岸生態系の環境変動に対する生態的応答を明らかにすることを目的に、動物の行動生態・物質循環過程・生物多様性の解析を行う。</p> <p>特に、海洋と陸上をつなぐ極域陸上生態系における物質循環系とそこに見られる生物多様性の全体像を明らかにし、今後予想される急激な環境変動に対する応答を予測するための研究を実施する。</p>	平成31年3月まで (3年間) 1名	伊村智 教授 042-512-0737 imura@nipr.ac.jp
8-②	環境変動に対する極域生物の生態的応答プロセスの研究	<p>本研究課題では、両極域の沿岸生態系の環境変動に対する生態的応答を明らかにすることを目的に、動物の行動生態・物質循環過程・生物多様性の解析を行う。</p> <p>特に、極域の高次捕食動物の採餌行動と環境変化との関係について観測データの取得・解析を行い、今後予想される急激な環境変動に対する応答を予測するための研究を実施する。</p>	平成31年3月まで (3年間) 1名	伊村智 教授 042-512-0737 imura@nipr.ac.jp
9	北極環境変動の解明に向けた国際共同研究の推進	<p>本課題では、ニーオルスン基地などの北極観測拠点を利用した北極環境変動の現状把握と変化プロセスの解明、将来予測の精度向上などを目的としている。</p> <p>具体的には、温室効果気体や雲・エアロゾルのモニタリングデータを利用した研究、または、陸面、海面の物理過程解明に関する研究などで、拠点観測、野外調査に基づくデータ解析をはじめ、モデルを用いた数値シミュレーションなど多様な手法による研究を行う。</p>	平成31年3月まで (3年間) 1名	榎本浩之 教授 042-512-0604 enomoto.hiroyuki@nipr.ac.jp

※ 各研究課題に係る業務の他、関連する研究プロジェクト等の業務に従事させることがあります。また、研究課題名は今年度中に今後若干の変更を行うことがあります。